

2学期末 保護者会 校長あいさつ

1、2年生及び特別支援学級の保護者の皆様、改めましてこんにちは。本校校長の田村でございます。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただいていることに感謝申し上げます。早いもので、先日「今日から12月です」と話していたと思ったら、今日は、もう月の3分の1が過ぎようとしています。この調子でいくと、クリスマスイブの終業式をあっという間に迎えてしまいそうですね。

さて、2学期のお子様はどうだったでしょうか。毎日、楽しく充実した学校生活が送られていたでしょうか…。年頃の中学生ですから、心も体も急激に成長する時期であるが故に、時に不安定な一面を見せることもあったのではないのでしょうか…。でも、それはあって当然なんですね。私達も中学生や高校生の時は、まだまだ大人から見たら、小さな世界に生きている自分でしたが、その中で精一杯色々なことを考え、悩み、もがいたものですよね。時に大人や社会というものが堅苦しく、理不尽なものに見え、反抗心を抱くこともありましたよね。勉強の成績が上がらない自分に苛立ったり、自信を無くしたり、自分は何に向いていて、将来どんな生き方をするのが見えずに不安な気持ちになったりもしましたよね。でも、それこそが青春というものなのですよね。部活で汗を流すことも、友達と遊んだり、語り合ったりすることも、そして恋をすることも青春ですが、自分を一人孤独に見つめ、自分の夢や生き方がなんであるのかを自分自身に問い続けること、そのための豊潤な時間が許されている期間を青春というのではないかと私は思います。「最近はろくに口もきかない」なんていう保護者としての愚痴をよく耳にします。言葉で表現するのは難しいことですが、付かず離れずと言いましょうか…。押したり引いたりと言いましょうか…。生身の人間を相手にするわけですから、確固たる子

育てのハウツーはないのです。370人の子供が本校にはいますが、一人一人すべて違う子なのです。ですから、保護者としての接し方も試行錯誤を繰り返し、三歩進んで二歩下がる、時には三歩進んで四歩下がってしまうこともあるかもしれません。しかし、忘れてならないことは、親子の絆があるということです。他人と違い、親子や兄弟はけんかしても愛情が薄れることはありません。試行錯誤を繰り返す中で、益々絆が深く強いものになってゆくのですから、自信を持って子供と向き合ってください。

2学期は、新型コロナウイルスの影響により分散登校からスタートしました。9月に予定していた3年生の修学旅行と10月に予定していた市民文化会館での合唱祭、そして部活動の新人戦が中止となりました。最近は、これまでの状況が嘘であったかのように新規感染者が減っている状況があり、先日、試験的に全校集会や生徒集会を体育館に生徒を集めて実施しました。3年生におきましては、E-フェスと名付けた学年の文化祭を実施し、大変思い出に残る良いイベントとなりました。さらに、今月21日には、本校体育館にて合唱祭と文化部発表会を兼ねた、しらさぎ祭を企画し、現在各学級では、クラス合唱の練習に熱が入ってきたところです。また、2年生につきましては冬休み明けの1月14日（金）から、2泊3日のスキー教室を予定し、現在準備を急ピッチで進めているところです。ただし、新型コロナウイルスにつきまして、諸外国では再度の感染が広がっていると報道されています。今後も社会情勢を常に把握し、気を緩めることなく教育活動を展開してまいります。

今日はこの後、各学年から2学期の学習や生活などにつきまして話があります。2学期を良い形で締めくくり、3学期につなげられるようよろしくお願いいたします。

令和3年12月9日 春日部市立飯沼中学校長